

事業所における自己評価結果(公表)

【放課後等デイサービス】

公表:令和6年 2月 26日

事業所名: なかよしキッズ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			事業所だけでなく、法人が共有で使っている場所や地域の公園等を活用して活動スペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切であるか	○			十分確保できている	・小集団と個別と、子どもの実態に合わせてどちらも対応できるように、職員体制や対応方法について考えていきたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		対象となる子どもがいないため、必要に応じて対処していきたい	
業務改善	4	業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			職員会 朝の打ち合わせ LINEWORKSを活用した業務連絡	・日々の活動や子どもたちの様子などを全体で共有することで、一丸となって支援に取り組めるようにしていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			LINEを活用した連絡	密に連絡が取れることで保護者の満足度もあがっているので、引き続きLINEを活用した連絡等続けていきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			公開後、保護者へも周知している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			スタッフ派遣事業(やまびこ医療福祉センター)を活用した職員研修 県社協の研修 15研(事業所内ミニ研修)	・保護者も巻き込み形で専門職による研修を行うことができたので継続していきたい ・少ない時間で少しでも学ぶ機会を設けるために新しく15研を今年度からスタートしたので、内容を深めて継続していきたい
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			必要に応じて評価バッテリーを使い分けている	・子どもの実態に合わせて、作業療法士を中心に評価を継続していきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			グループのリーダーが中心となって行っている 日々の振り返りも行っている	・グループ内だけでなく、専門職や管理者などのスーパーバイザーが入ることで、グループごとの活動がより整理されるような体制作りをしていきたい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			プログラム内容が変化する過程では、継続した活動を取り入れつつ変化させていっている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇の際は、屋外での体験活動を中心にプログラム作成している	・公共交通機関を使う活動など、子どもの実態に合わせてプログラムの内容を検討していきたい
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どもの実態に合わせてSST的な内容など個別対応を取り入れている	・専門職の個別対応なども視野に入れて、支援の幅を広げられるようにしたい
	15	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			打ち合わせは必ず行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			打ち合わせは必ず行っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			業務日誌 活動日誌 ケース記録	・記録の効率化 ・緊急性に応じた仕分けの仕方
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			保護者面談によるモニタリング 関係機関への聴き取り	関係機関での様子を確認した上で保護者の面談に臨めるようにしていきたい
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			子どもの実態や好みも考慮しつつ、身体を使った活動を中心に、ガイドラインに基づいて活動を設定している	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 関係者との 連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児発管 専門職 グループリーダーなどが参加	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		○		基本的には保護者経由で確認しているため	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか					
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○				
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○		対象者がいない	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			公開療育への参加や関係機関研修への参加	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○		
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	議事録の閲覧	機会があれば参加したい
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳やLINEを使ったやり取り	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			ペアレントトレーニングを年6回開催した	開催日の期間が空いてしまうことがあったので、定期的に開催できるようにしていきたい	
保護者への 説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時や変更があった場合説明している	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			相談支援とも連携を図りながら対応している	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者茶話会、プチ学習会も兼ねて「なかよしタイム」を開催している	
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談支援とも連携を図りながら対応している	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			月1回の「なかよしだより」	
	35 個人情報に十分注意しているか	○			項目ごとに分けた個人情報承諾書に基づき個別に対応している	
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			連絡帳やLINEの活用 LINEの場合は写真や動画も	
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			登下校時の小学生がトイレを借りにきたり、怪我をした際の応急処置をしたりしている こども110番の家のぼり設置		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○				各種マニュアルについては、保護者向けに内容を整理して配布できるようにしたい
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○				消防署も交えた訓練を行えるようにする
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			外部研修 内部研修	チェックリスト等を使用し、虐待について改めて考える機会を設けていきたい
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			個別支援計画に記載、説明を行っている	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		現在対象となる子どもがいない	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			事例があった場合はすぐに共有、記録 法人内の事例についても共有	記録は綴っているが事例集とはなっていない 委員会で新書式への移行を検討中

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)